

## 県議会報告

# 男女ともにいきいきと輝く 平和な千葉へ！

千葉県議会議員（松戸市） **安藤じゅん子**



私は民主党千葉県議会議員会という会派に所属し活動しています。本年4月改選で、現在定数95名中平成27年8月現在の会派別内訳は自民党54、民主党17、公明党8、共産党5、市民ネット・社民・無所属4、維新2、護憲の会1、我孫子1、県民の声1、いんば1、かとり1という会派構成となっております。自民党が定数の6割という過半数を占めており、議長・副議長、8つの常任委員会の委員長・副委員長等すべてのポストを独占しており、監査委員1名を民主党会派から選出しているという状況は改選前と変わっておりません。

民主党は男女共同参画を進めるため、新たに守屋貴子議員（市川市選出）と私の2人の女性県議を誕生させました。自民党はこれまで過去にひとりも女性県議を候補としても擁立した歴史はありません。男女共同参画条例のない唯一の自治体という汚名を長らく背負ってきました。私は、今後制定に向け、超党派で取組む当該条例を、千葉県で住まう、働く、学ぶすべての人びとにとって歓迎できる全国で最高水準の条例として制定できるよう尽力してまいります。

また、当局に対しては、今後も是々非々で県民目線を第一に審議を行ってまいります。しかし、議員構成からもわかるとおり、県民から出された陳情や意見書は全て自民党の賛否次第で決まると

いう構造になっております。戦後70年という節目の2015年。6月議会においては、民主党会派から提出した「安保法制に対し慎重審議を求める意見書」も大変残念ながら否決されてしまいました。そして、否決された意見書や陳情は、千葉県議会ホームページにその掲載がなされることはありません。また委員会における議論の場で傍聴者に対し当該資料の配布も行いません。日本は民主主義国家でありますから、議会では少数の意見であったと記録から切り捨てるのではなく、県民に対する議会の説明責任を果たすためにも、議論の積み上げのために、こうした情報の公開を、今後は徹底していく事を求めてまいります。

## ■地方分権の要！財政に自主性をもっと

県政運営の基本は健全財政です。千葉県の自主財政の根幹を占めている平成26年度の県税収入は、景気回復に伴う企業業績の好転等により法人二税や県民税が前年度に比べて増加するとともに、地方消費税についても輸入額の増加や税率の引き上げにより増収となったことなどから、6.6%増の7,127億円となりました。財政不足は臨時財政対策債・減収補てん債の発行や退職手当債で埋め合わせをするという手法であり、県債残高は平成26

年度で3兆213億円に上っており、満期一括償還のための積立金も3,526億円に上ります。

また、26年度の一般会計決算では民生費の伸びが大きく、決算額は2,404億2,200万円と歳出の14.9%を占めており、今後も増大が見込まれます。今年、平成24年から4年間で財政健全化の道筋をつけたいと作成した賃金抑制や人員削減、退職金削減を主とする「行政改革計画」の最終年に当たります。この進捗を確認し、真の財政健全化は「起債残高を減らすこと」であることを引き続き働きかけ、さらに提案してきた県有資産の全庁的掌握・管理から、資産の売却の進捗をチェックし、財源不足解消に引き続き取り組めます。

政府は「地方創生」のかけ声のもと、地方自治体に付け焼き刃的なプランを押し付けようとしています。民主党政権時代に推進した「地方一括交付金」の復活など地方の自主性・持続可能性を高められる施策を提案していきます。

## ■すべてはみんなの笑顔のために！

さて、千葉県の人口は2010年の621万6千人をピークに減少し始め、3.11以降、一度620万人を割ったものの2015年に再び620万人を突破しています。しかし、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2025年には598万7千人に減少します。また、千葉県の高齢者（65歳以上）人口の割合が2025年には28.7%と高まる一方で、生産年齢人口の割合（15歳以上64歳以下）も60.1%と減少することが見込まれています。

高齢化は、医療・福祉ニーズを押し上げます。避けて通れない老いに対し、平均寿命と健康寿命の差をいかに縮めて健康寿命そのものを延伸していくかが、医療費抑制、後年度負担抑制につなが

り、高齢者ご自身の笑顔につながります。介護予防を徹底するとともに、県民の多くが在宅で最後を迎えたいとしている昨今、いかに在宅ケア体制の整備、人材の育成と確保を推進していくため、地域包括支援センターの充実に向けて県を上げて取り組んでいます。

## ■公共施設再編～徹底した多機能・複合化を！

幕張メッセの改修に150億円が見込まれるという県の発表がなされたことは記憶に新しいと思います。厳しい財政運営を強いられる中で、バブル期に建設した大型の公共施設が老朽化し建て替え期を迎えています。財源不足の中で公共施設の長寿命化計画をどのように進めていくのか、施設取り壊し費として除却債という起債を認めざるを得なかった現状を考えると県立の文化・福祉施設、橋梁やトンネル、護岸整備等を早急に進めていかなければなりませんから、PPP（公民連携）を活用して将来世代への負担を発生させない手法を提案していきます。

## ■働くこと・食べることは、生きること

千葉県の経済発展のためには東葛・湾岸ゾーン・空港ゾーン、香取・東総ゾーン、圏央道ゾーン、南房総ゾーンを設定し、地域の特性を活かし、県内全体の経済発展を目指しています。そのキープポイントとなるアクアラインの通行料金800円の社会実験が継続となりました。これを受け、さらに、千葉県に人を呼び込むまちづくりを進めなくてはなりません。高知県では、四万十市が高齢者雇用創出を実現するとともに、農林水産観光事業の連携を実現した農家レストラン「しゃえんじり」等

の成功事例があり、千葉県の参考となります。本県立地を最大限活かした外国人観光客の呼び込み（インバウンド）については、円安や他国での感染症発症、自然災害等、外的要因に影響を受けない力強いものとするための諸施策を実現するよう働きかけてまいります。

## ■未来へ継ぐ糧に想いを込めて

未来の子どもたちに緑豊かな自然環境を引き渡せるよう、これ以上我々世代で地球資源を使い切ってはなりません。昨今の大地震・津波・竜巻、台風に対し、想定外を理由に政治は逃げてはいけないと気持ちを新たにしました。日本が2030年代までに脱原発を実現できるよう、まずは、自然エネルギー先進国に倣い、徹底した省エネ化を促進し、再生可能エネルギーの事業開発を軌道にのせることが大切です。

また、我が国の自殺率は高止まっています。毎年3万人もの方々が、経済的な理由や病気を苦に

し、自ら命を絶っていることは世界的にみても異常事態です。ご家族含めれば毎年10万人近くの方々が故人の苦しみを想いながら、遺された人生を歩んでいかななくてはなりません。千葉県において、既に存在する様々なセーフティネットを一元化するなど、実効性をもった対策を講じていきたいと考えます。また、いじめ・不登校問題をはじめ、学校現場で子どもたちや保護者、教職員が抱える諸課題に対し、施設やスタッフの充実整備は喫緊の継続的課題です。

動物愛護法改正に伴う県条例改正により、改善に舵がきられたペット行政ですが、千葉県富津市動物愛護センターの現実を未だ変えるに至っていません。捨てられたペットたちの殺処分をいかにゼロにしていくか。いまや人口を上回る個体数となり、家族同様の存在となっているペットたちの終生飼養の啓発と制度整備を促進してまいりたいと考えます。引き続き県民のいまと未来にしっかりとその責任を果たせるよう政策実現に向け努力して参ります。よろしく願い申し上げます。

## 安藤 じゅん子 プロフィール

早稲田大学社会科学部卒業

2010年11月 松戸市議会議員に当選

2015年4月 千葉県議会議員に当選